

収穫作業が終わったら来年に向けてひと手間を!!

●ケイ酸資材の秋散布と稲わらのすき込みを実施しましょう

いま、管内の水田の七割はケイ酸不足となっています。稲はケイ酸植物ともいわれ、作物の中では最も多くケイ酸を吸収します。ケイ酸を多く吸収した稲は、上位3葉が直立し受光体勢が良くなり、根の活力が維持されます。そのため生育後半まで養水分の吸収が良くなり、高温や低温、長雨などの気象変動に強くなり、登熟を向上させ高品質・多収につながります。また、葉が硬くなることにより病害虫の被害を軽減することができます。

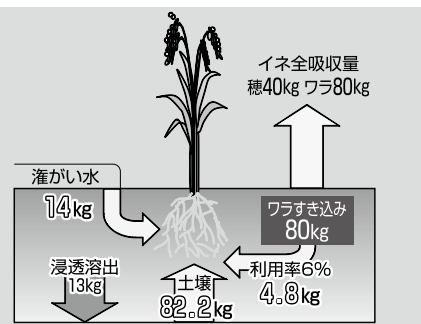
今年、稲が軟弱で葉もちが見られた方や、稲が倒伏した方はケイ酸不足が疑われます。

ケイ酸吸収の由来

あきたこまち600kg/10aを穫るには、ケイ酸 **120kg** 必要。
でも、実際は…

$$\begin{array}{c} \text{土壌} \\ 82.2\text{kg} \end{array} + \begin{array}{c} \text{灌がい水} \\ 14\text{kg} \end{array} + \begin{array}{c} \text{ワラ} \\ 4.8\text{kg} \end{array} = 101\text{kg}$$

19kg 不足している。
施肥等による補給が必要。



上の図を見ると毎年19kgのケイ酸が不足しています。不足したケイ酸は施肥により補う必要があります。

また、現在販売されているケイ酸資材は流亡が少なく秋にケイ酸資材を散布しても次年度に利用されます。春先は育苗作業や天候不順などで作業が遅れがちになります。春作業を余裕を持って行うためにもケイ酸資材（おばこロマン大地、ケイ酸加里）の秋散布を行いましょう。

秋散布と同時に稲わらをすき込むことにより冬期間に稲わらの腐熟が進み、代かき後の浮きわらが減少します。また、「わき」が抑えられることにより活着。分けつが促進され早期に茎数が確保しやすくなります。

稲わらの秋すき込みの方法

散布・耕起は地温が低くならない10月中旬までに実施しましょう。稲わらのすき込み耕深は5～10cm程度とします。畦畔際や枕時は畦塗をするため耕起しません。

●今年度ノビエに悩まされた方へ

今年ほ場にノビエが残草し種をこぼしてしまった場合、来年もノビエが繁茂する事が予想されます。対策として石灰窒素（20kg/10a）を散布します。石灰窒素を散布することによりノビエの種子の発芽を促し、冬期間の寒さでノビエを枯死させます。

また、石灰窒素を秋に散布すると肥料成分が次年度に持ち越されるため、来年の基肥を20%ほど減肥することができます。



●ラウンドアップマックスロードの秋散布について

稲刈り後、ラウンドアップマックスロードを畦畔に散布することにより、翌年の春作業の期間中の草刈りを省略することができます。余裕を持って作業を行うことができます。

その他の効果として、野ネズミの隠れる場所が無くなるためネズミ穴が減り、畦畔からの漏水を防ぐことができます。また、斑点米カメムシ類のすみかとなる雑草が無くなるため斑点米の発生を抑えることができます。

ラウンドアップマックスロードは稲刈り後10月下旬までに散布を行います。散布倍率は50～100倍としますが多年生雑草が多い場合は50倍で散布します。雑草の葉が緑色であれば秋の低温時でも安定した効果を発揮します。



登熟順調、適期刈取りを ～適正な乾燥調製で高品質米仕上げを～

●現在の生育状況 仙北地域振興局農林部農業振興普及課より

管内の出穂盛期は8月4日で、平年並となりました。（定点あきたこまち10地点の出穂期平均は8月3日（平年8月3日、前年8月1日））

8月19日現在の「あきたこまち」の生育は、穂数は433本/㎡（平年比98%）、㎡当たり粒数は30,865粒（同96.0%）、葉数は12.6葉（平年差-0.2葉）となっています。

平年に比べ、㎡当たり穂数、㎡当たり粒数ともに平年よりやや少なくなっております。

●出穂期別積算気温到達予想日

ア メ ダ ス 地 点		出 穂 日				参 考 平 年 値 8月3日
		8月1日	8月4日 (管内出穂盛期)	8月7日	8月11日	
大 曲	950℃到達日	9月8日	9月11日	9月16日	9月22日	9月15日
	1,050℃到達日	9月14日	9月17日	9月22日	9月28日	9月20日
角 館	950℃到達日	9月9日	9月11日	9月16日	9月22日	9月15日
	1,050℃到達日	9月14日	9月17日	9月22日	9月28日	9月20日
田沢湖	950℃到達日	9月11日	9月13日	9月19日	9月25日	9月17日
	1,050℃到達日	9月17日	9月19日	9月25日	10月8日	9月23日

※8月31日まで本年値、9月1日以降は平年値で試算

出穂日以降、高温多照の日が続く、刈取り適期は平年と比べ早まると予想されています。胴割米の発生を防ぐためにも、施設の整備・点検を早めに行い刈取りに備えましょう。

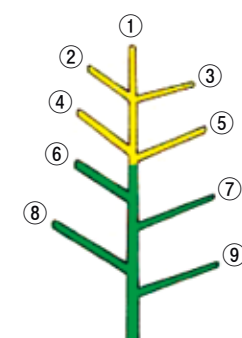
実際の刈取りは以下の判定法を組み合わせ、総合的に判断しましょう。

刈取りの 注 意 点	適期に刈らないと青米や胴割米の増加につながりますので、適期刈り取りに努めましょう。	
	○早 生 種（あきたこまち）…………… 出穂後45日頃	出穂後積算気温 950℃～1,050℃
	※積算気温1,100℃を越えると胴割粒が増加する。	
	○中晩生種（ゆめおばこ・めんこいな）…… 出穂後50日頃	出穂後積算気温1,050℃～1,150℃
	※積算気温1,200℃を越えると胴割粒が増加する。	

刈取り判断の目安



刈取適期の籾の熟色



刈取適期の枝梗黄化程度

1) 籾の熟色

通常年では葉や穂首が緑色であっても、籾の黄化程度が90%（黄白+黄色）の頃が適期となります。

2) 枝梗の黄化程度

上から5番目の枝梗まで黄化した頃、ただし、低温年は枝梗の黄化が遅れることから注意しましょう。

●**収穫に向けて** シーズン前に作業機械の点検を必ず行いましょう。

- ・刈取り前に作業機の点検を行しましょう

◎コンバイン

- ・刈刃・ワラ切刃にガタ・刃こぼれがない ☐
- ・バインダーは確実に動作する ☐
- ・オーガ、昇降機にゴミがない ☐
- ・クローラーの張りは適正 ☐
- ・チェーン・ベルト類は緩みがない ☐
- ・油圧装置などの注油はしていますか ☐

◎ 粉 摺 機

- ・ 粉殻は確実に排出されますか ☐
- ・ ロールの摩耗はありませんか ☐

◎選 別 機

- ・くず米に整粒は入っていませんか ☐
- ・選別アミに穴あきは無いですか ☐
- ・計量器の重量測定は正確ですか ☐

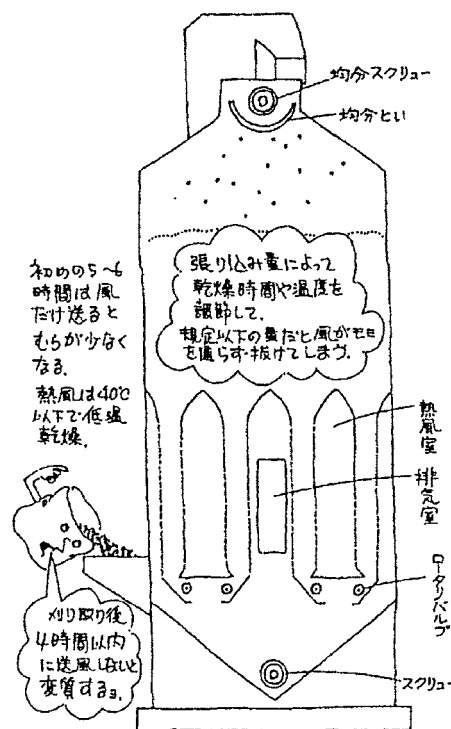
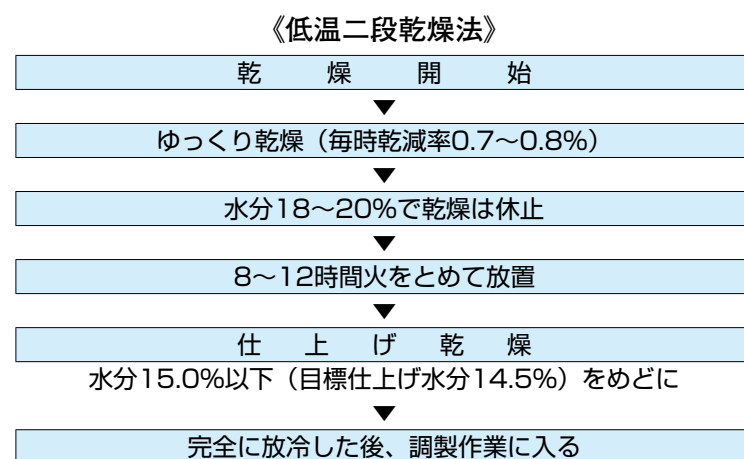
◎機械収穫作業の注意点

- ・収穫時の粉水分は25%以下が望ましく、収穫時刻は稲体が乾燥している午前10時～午後5時頃を目安にします。
- ・刈取り品種が変わる場合には**コンタミ（異品種混合）**を避けるため、粉搬送オーガ等の清掃を徹底してください。
- ・シーズン中は各部の点検やチェーン等への注油を怠らないようにしましょう。
- ・作業中のトラブルに際しては、作業事故防止のため、必ずエンジンを止めてから点検作業に入るようにしましょう。
- ・雨天の直後や早朝の収穫は穀粒損失やコンバインの詰まりの原因となるので避けましょう。

●**乾燥作業** 高水分粉の高温乾燥は食味低下を招きます!!

1. 美味しさの決め手は「低温二段乾燥」です!!

一般に高温で火力乾燥すると食味が低下しやすくなります。これは、お米にふくまれる脂肪の分解が始まって、貯蔵中の食味低下を招くためですが、高水分粉ほど低温で乾燥する必要があります。



2. 乾燥作業は気温と加熱温度のバランスの調整が大切です

- ・乾燥機での乾燥は気温の高さや湿度によって、仕上がりが変わります。一般に、早生品種（あきたこまち）は胴割れが発生しやすいため、先の低温二段乾燥を絡めてゆっくりと乾燥させることが大切です。
- ・青米混入の多少によって、仕上がり水分の変化があることも考慮します。
加熱乾燥が終了してから、放冷中に乾燥が進んだり、戻ったりします。これは保管中の建物・乾燥機の特性等の影響もありますが、最も与える影響の大きいものは乾燥粳に含まれる青米の混入率です。

《青米の混入と乾燥の進み方》

玄米100粒中の青米混入数	乾燥終了後の水分変化	乾燥停止設定玄米水分	乾燥終了水分値
11粒以上の時	乾燥が戻る(水分率が上がる)	14.5%	15.0%
6～10粒の時	水分変化が少ない	15.0～14.8%	15.0%
0～5粒の時	乾燥が進む(水分率が下がる)	15.5～15.3%	15.0%

◎乾燥機の水分計に任せず、自分の手で水分を計ること!!

● 粃摺・米選別作業

籾摺り作業では肌すれ米や籾の混入を減らし、米選作業では被害粒や未熟粒を除去し、全量 1 等米の生産を目指します！

- ・ 粳摺り機はゴムロールの回転で粳を飛ばします。ロールの間隔が狭すぎると、肌ずれ米の発生、開きすぎると、粳がついたままとなりますので、調整を繰り返して行います。

●コンタミ（異品種混入）対策 異品種混入はJAS法違反です!!

- ・店頭で販売される玄米（精米）は生鮮食品に分類され、名称、原料玄米（産地・品種・産年・使用割合）、内容量、精米年月日、販売者の表示が必要とされています。
- ・製品に異品種が混入した場合はＪＡＳ法違反に問われます。

JAS法で定められた表示(例)

名 称	精 米		
原 料 玄 米	産 地	品 種	産 年
内 容 量	kg		
精 米 年 月 日	〇〇. 〇〇. 〇〇		
販 売 者	〇〇株式会社 〇〇県〇〇市 〇-〇 電話〇〇〇(〇〇〇) 〇〇〇〇		

名 称	精 米			
原 料 玄 米	産 地	品 種	産 年	使用割合
内 容 量	kg			
精 米 年 月 日	〇〇. 〇〇. 〇〇			
販 売 者	〇〇株式会社 〇〇県〇〇市 〇-〇 電話〇〇〇(〇〇〇) 〇〇〇〇			

◎特に、複数品種を作付けしている生産者は刈取・乾燥・選別時は作業機械の清掃を徹底し、品種の混合に細心の注意をはらいます！

◎集荷規格 … 仕上げ水分目標14.5%から15.0%、量目（紙袋）は皆掛重量30.5kg

1. 高品質米の区分
整粒歩合80%以上の「1等A米」と、整粒歩合80%以上かつ玄米のタンパク値6.2以下の「1等S米」の2種類に仕分けします。
2. 対象品種
あきたこまち、ゆめおぼこ、めんこいな、ひとめぼれ

農作業事故を無くしましょう!!

毎年、農作業中の事故により、約400人が亡くなっています!!

自脱コンバインの事故に関する安全対策のポイント

- ① 後進時は、より慎重に運転しましょう！

コンバインの事故で最も多いのが**転落・転倒事故**です。特に、後進時に事故が多く発生する傾向があります！



左の写真のようにコンバインの後方は死角が多く、特に後進時に注意が必要です。

- 畦畝や路面の凹凸等による転倒・転落事故に十分注意しましょう。
- 補助作業者は、コンバインの死角での作業に十分注意しましょう。

- ② 納屋等からの出入り時は十分注意しましょう！

コンバインの挟まれ事故は、**納屋等からの出入り時**に梁と挟まれることによって多く発生しています！



左の図のように
納屋等の狭い場所
でコンバインを動
かす際は声かけ・
合図を励行しま
しょう。

- ③ 巻込まれによる負傷事故に注意しましょう！

コンバイン巻込まれ事故は点検整備・清掃中に多く発生しています！そのうち、エンジン非停止が事故要因となるケースが多い状況です。

点検整備・清掃作業ではエンジンを停止しましょう。
手こぎ作業時は、適切な服装で機体の内側に手を入れないように
しましょう。

